



Victorian Certificate of Education

2011

SUPERVISOR TO ATTACH PROCESSING LABEL HERE

STUDENT NUMBER

Letter

Figures

Words

JAPANESE

FIRST LANGUAGE

Written examination

Friday 4 November 2011

Reading time: 3.00 pm to 3.15 pm (15 minutes)

Writing time: 3.15 pm to 5.15 pm (2 hours)

QUESTION AND ANSWER BOOK

Structure of book

<i>Section</i>	<i>Number of questions</i>	<i>Number of questions to be answered</i>	<i>Number of marks</i>	<i>Suggested times (minutes)</i>
1	1	1	25	30
2	1	1	30	40
3	5	1	25	50
			Total 80	120

- Students are permitted to bring into the examination room: pens, pencils, highlighters, erasers, sharpeners, rulers and any printed monolingual and/or bilingual dictionary in one or two separate volumes. Dictionaries may be consulted during the reading time and also during the examination.
- Students are NOT permitted to bring into the examination room: blank sheets of paper and/or white out liquid/tape.
- No calculator is allowed in this examination.

Materials supplied

- Question and answer book of 18 pages, including **Assessment criteria** on page 18.

Instructions

- Write your **student number** in the space provided above on this page.
- Write all your answers in the spaces provided in this question and answer book. The spaces provided give you an idea of how much you should write.

At the end of the examination

- Hand in this question and answer book at the end of the examination.

Students are NOT permitted to bring mobile phones and/or any other unauthorised electronic devices into the examination room.

This page is blank

This page is blank

TURN OVER

SECTION 1 – Listening and responding**Instructions for Section 1**

You will hear one text. It will be played twice. There will be a pause of approximately five minutes between the first and second playings of the text. You may make notes at any time.

Listen carefully to the text and then answer the questions in **JAPANESE**.

TEXT 1**Question 1**

- a. さくらさんは、iPAD のどんなところが便利だと言っていますか。五つ書き出してください。

- b. さくらさんは、iPAD に本を何冊ダウンロードしましたか。

- c. さくらさんによると、作家の中には「自分の本を電子書籍にしたくない。」と言う人がいるそうです。それはなぜですか。

- d. さくらさんは、「時代の流れ」と言いました。それは何を指していますか。

You may make notes
in this space.

SECTION 2 – Reading and responding

Instructions for Section 2

Read the two texts and then answer the question in 900–1100 *ji* in JAPANESE.

TEXT 2

食育と食生活の現状

2005年に、国民が生涯にわたって健全な心身を^{つちか} 培い、ゆたかな人間性を^{はぐく} 育むことを目的とした食育基本法が制定された。「食育」とは、「食べる」という点から見た食事や食材のことだけではなく、食文化や、食物の内容および質、食事の環境、食事のマナー、さらには、食物生産など、広い面から食生活を見直すのが目的である。

国民の健康に重大な影響があるとして「食育」が問題にされるようになったのは^{さんちぎそう} 産地偽装(食料の生産地を正しく伝えない)や、製品の材料をごまかして表示するなど、食物の安全性に重大な影響がある事件が多発した1980年代だった。高度経済成長の時代、人々の生活は豊かになった。外で働く主婦が増えて、食事を作る手間を^{はぶ} 省くために「中食」や「バラバラ食」が増えた。母親の手作りの料理を家族一同で食べる例は少なくなり、週末や休日には、外食をするのが一般的になった。

食品業界がこのチャンスを見逃すはずはない。「便利・簡単・安い」を追及する主婦の要求に^{こた} 応えて、添加物を多量に使った各種のインスタント食品やレトルト食品が現れた。インスタントヌードルの「おいしくてこくのある」スープは、何種類もの添加物だけでできている。子供たちは、添加物だけで作られた「こくのある味」がおいしく、自然の味はまずいと感じ、伝統の味が忘れられてきている。また、添加物を使えば食品は大量生産でき、大幅なコストダウンができる。

食品添加物の専門家・^{あべつかさ} 阿部司氏は、「^{はいき} 廃棄するばかりのくず肉」に30種類もの添加物を加えて、安くおいしい特売用の「ミートボール」を開発した。これは、大ヒット商品になった。しかし、自分の子供には絶対に食べさせたくない食品だった。

これが、子供の誕生日に「^{ちそう} ご馳走」として出された。ショックを受けた阿部氏は、翌日会社を辞めて、食品添加物に関する情報や、食品がどのように作られているかを一般に知らせる活動を始めた。説明会では、添加物だけを使って、プロの味がするスープの素や、果汁が一滴も入っていないジュースを作ってみせる。そして、よく使われる添加物の一つ「たんぱく加水分解物」が、脱脂大豆や魚粉を塩酸で分解して作られていることなどを説明する。阿部氏は、特に「たんぱく加水分解物」の影響を心配している。著書「食品の裏側——知れば怖くて食べられない」では、添加物のメリットを認めた上で、激増した添加物が健康に及ぼす影響に注意するようにと警告している。

注1: ^{なかしょく} 中食 — デパ地下やコンビニなどで出来合いの^{そうざい} 弁当や惣菜を買ってきて家で食べる。

注2: バラバラ食 — インスタントやレトルト食品を多く用意しておいて、家族がめいめい好きなものを勝手に食べる。

You may make notes in this space.

TEXT 3

食物は命:でも、食べるより遊びたい

2008年は「食品値上げ。家計は悲鳴」と言う報道が続いた。しかし、一般家庭の支出内容を見る限りそれほど困っていたようには見えない。総務省家計調査によると、一世帯が一年間に買う米代は、菓子代の半分以上で、携帯電話代は、菓子代を上回る。

「食費四万円は高いと思うけれど、家族の携帯代四万円は減らせない。」「食事は抜いてもお菓子は食べちゃう。」「素材から手作りすると高くつくから、安い出来合いを買います。」「1960年以降生まれの主婦を対象とした東京首都圏の食卓調査「食 DRIVE」のインタビューでは、このようなコメントが多く聞かれた。主婦はインターネットのサイトなどで一円でも安い食品を探して食費を切り詰め、家族レジャーや、洋服、習い事、通信費、インテリア購入などに当てる。栄養のこと、安い食品は、安い原料(添加物)で作られていること、大量の簡易食品が使用期限を過ぎて捨てられていることなどには関心がない。

このような背景が、正直な生産者や食品メーカーを追い詰めて偽装を生みやすくし、農業に従事する者を減らし、山村を荒れさせていくのではないだろうか。「食は命の根幹だ。食べ物を作る人たちが『食えない』ような国では、国民の健康も豊かさもあるはずがない。」(価格の向こう側 p.71)

内田美智子氏は、著書『いのちをいただく』で次のように述べている。(pp. 58、59)

「食べ物が満ち溢^{あふ}れている時代に、食べ物のありがたみを伝えることは難しい。食べ物を粗末^{あつ}にしてはならないと、教えることは難しい。(略)日本の一年間の食品廃棄量は2000万トン以上。一人一日1800カロリーで生活している発展途上国での3300万人の年間食料に相当する。そんな時代に、どのようにして食べ物のありがたみを伝えるか。(略)

私たちは食べ物を食べて生きている。(略)すべての食べ物は命だ。肉も魚も野菜も米も、すべてが種^{しゆ}を残そうとする生命体だ。人が生きるということは、命をいただくこと。私たちの命は、多くの命に支えられている。それを実感した時に、食べ物のありがたみが分かる。食べ物を粗末^{あつ}にしてはならないと分かる。」

Question 2

ほうじやく
飽食の時代と言われる日本には、安くておいしい食物があふれています。一方、肥満、子供に成人病の兆候が現れ始めている、若者に糖尿病予備軍が増えてきている、など、健康上の問題も起きています。テキスト2と3を読んで、その内容を踏まえつつ、自分の意見や食生活に関して気づいた点なども含めて、「食育からみた食生活の現状と将来」という題で小論文を書きなさい。この小論文は一般を対象にしたヘルスマガジンに発表する予定です。(字数: 900-1100字)

Total 30 marks

You may make notes
in this space.

SECTION 3 – Writing in Japanese**Instructions for Section 3**

Answer **one** question in 1000–1200 *ji* in **JAPANESE**.

Space is provided on the following page to make notes.

Question 3

最近、日本で自転車を移動手段として使う人が増えています。自転車を使うことについての利点・問題点・対策・あなたの意見をスピーチ原稿として書きなさい。このスピーチは、テレビの一般向け番組で発表するためのものです。

OR

Question 4

小学校に就学前の子供に習い事をさせる親は多く、早期教育と呼ばれ、語学やスポーツ、音楽などの習い事に人気があります。日本に住んでいるあなたの年上のいとこが、2歳の子供に英語を習わせようか迷って、あなたに相談してきました。早く英語を習い始めることについてどう思うか、習い始めることの利点と問題点を挙げた上で、あなたの考えも含めたメールを書きなさい。

OR

Question 5

結婚活動(婚活)がブームとなり、定着してきています。この現象についてどう思うか、若者向けの雑誌が投稿を募集しています。婚活の長所・短所の両方について考え、投稿文を書きなさい。

OR

Question 6

あなたは発明家です。最近あなたは世間があっと驚く発明をして有名になりました。ある科学雑誌から、発明品を思いついた動機、そして発明の結果何が起こったかを随筆に書いてほしいと頼まれました。その原稿を書きなさい。

OR

Question 7

間違い電話がかかってきたことから始まる物語を作りなさい。それは高校生小説コンテストに出すためのものです。

Total 25 marks

You may make notes in this space.

Assessment criteria

Section 1: Listening and responding

- the capacity to understand general and specific aspects of texts
- the capacity to convey information accurately and appropriately

Section 2: Reading and responding

- the capacity to identify and synthesise relevant information and ideas from the texts
- appropriateness of structure and sequence
- accuracy, range and appropriateness of vocabulary and grammar (including punctuation and, where relevant, script)

Section 3: Writing in Japanese

- relevance, breadth and depth of content
- appropriateness of structure and sequence
- accuracy of vocabulary and grammar (including punctuation and, where relevant, script)
- range and appropriateness of vocabulary and grammar